

時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

(高学年) 2025年 夏号



発行：時津町立時津図書館

うちどく 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく(家読)」です。
難しいルールは要りません。

家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



「キリムの魔法のティーカップ」
桐山 エツコ/文・絵 ながわ よしこ/絵
(かもがわ出版)

インターナショナルスクールに通う5人が森の中で見つけた不思議なカフェ。ドアには「キリムのカフェ」とかかれています。おそろおそろの中に入ってみると、小さな男の子がひとり、テーブルに座っていました。そして、テーブルの上にはキリム柄のティーカップが5個置いてありました。しかも、5人が手に取ったカップの底には、それぞれの願い事が書かれてあったのです。



「10代から身につけたい「伝える力」」
池上 彰/著 くりた ゆき/マンガ
(PHP 研究所)

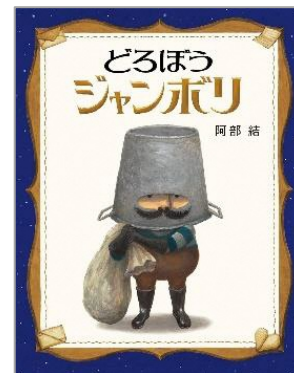
あなたが思っていること、感じていることをきちんと相手に伝えられていますか？時には、そんなつもりで言ったんじゃないのに、誤解されてトラブルになることもありますよね。伝え方が上手だったら、こんなことにはならなかったのにと、思ったことはありませんか？

この本を読んで、「伝える力」を身につけるために必要なことを詳しく学びましょう。



「トラブルメーカーのブルドッグ？」
トゥイ・T・サザーランド/作 相良 倫子/訳
(徳間書店)

エリックはかっこいい犬が飼いたくてたまりませんが、お母さんはなかなか犬を飼ってくれません。でもある日、お母さんが働く動物病院の前にミートボールという名前のブルドッグが捨てられていたのです。トラブルメーカーなミートボールとエリックの楽しい物語です。



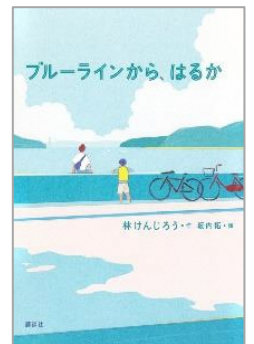
「どろぼうジャンボリ」
阿部 結/作
(ほるぷ出版)

バケツをかぶったジャンボリは、“てがみのたね”をぬすむ変わった泥棒です。“てがみのたね”とは、書きまちがえたり、恥ずかしくなってだすのをやめてゴミ箱に捨てられた、てがみのこと。でもある日、街からてがみがきえてしまって、ジャンボリは大あわて。可愛い泥棒ジャンボリの心があたたまるお話です



「なんとかなる本 樹本図書館のコトバ使い 4」
令丈 ヒロ子/著 浮雲 宇一/絵
(講談社)

こまった時、「なんとかして!」と強く思うと突然現れる・樹木図書館。ここには、『なんとかなる本』という本があって、図書館司書のヨウヒ・ジユモンと、コトバの力で問題を解決してくれます。
大人気シリーズの第4巻。今回は何をどのように解決するのでしょうか。



「ブルーラインから、はるか」
林 けんじろう/作 坂内 拓/絵
(講談社)

もしひまだったら、僕の自由研究につきあってほしいんだ。図書館で出会った風馬に突然頼まれたコトバは、風馬と一緒に自転車でしまなみ海道を走ります。走っているうちに仲良くなっていく二人は、それぞれが抱える悩みについても知っていきます。